

主 題：ただ主の栄光のために

聖書箇所：コリント人への手紙第一 10章31節

今日も私たちは「生きる」ということについて学んでいきます。前回、私たちは次のことを学びました。私たちクリスチャンにとって「生きる」とは主なる神への応答である。それは主の成してくださった恵みに対して、そして、私たちを造ってくださった創造主なる神に対して、私たちはふさわしく生きていくことだと。創造主なる神が被造物であるすべてのものに、そして、私たちに望んでおられるように生きること、そのご計画に沿って生きること、そのお考えに沿って生きることは当然のことです。そして、詩篇の著者は私たちに、この神に対するふさわしい生き方とは、常に主を誉め称えることであり、常に主を宣べ伝えることであり、常に主を礼拝することであると教えてくれました。私たち被造物によって賛美するに値する神です。人々が知らなければならない偉大な神です。そして、礼拝するに値するすばらしい神であります。このような応答をもって私たちは神の前を生きていくのだと、詩篇の著者が教えてくれました。

今日、私たちが見ようとしているこのコリント第一10章も、実は、私たちがどのように生きるべきかを教えてくれます。救いに与ったあなたがどのように生きていくべきなのかをパウロは私たちに教えているのです。Iコリント10:31「**こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。**」、これこそ、私たち人間、いや、被造物全体の創造主なる神に対する責任です。そして、新しく生まれ変わった私たちクリスチャンにとって、これこそ生きる目的そのものです。私たちを造ってくださり、私たちを愛してくださり、私たちを救ってくださったこの主権者なる神を、心から誉め称え、この方の栄光のために生きていく、そのことをパウロは、実は、この同じIコリント6章でこのように言っています。20節「**あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。**」と。パウロは、あなたはもう罪から救い出されたのだから、本来の目的に沿って、神の栄光のために生きていきなさいと教えます。

前回、私たちが見た詩篇の教えは、まさにこの神の栄光を現わす生き方が含まれています。なぜなら、主に喜ばれるように私たちが生きるなら、確実に主の栄光が現わされるからです。私たちが主を賛美する時に栄光が現わされ、主のすばらしさを伝える時に栄光が現わされ、主を礼拝し続ける時に主の栄光が現わされます。

今朝も私たちはこのIコリント10章を通して、主に対する私たちクリスチャンのふさわしい生き方について、「**主の栄光のために生きる**」ということについてごいっしょに学んでいきます。10:31をもう一度ご覧ください。確かに、ここで教えられていることは飲食に関することだと思いませんか？「**食べるにも、飲むにも、**」と記されています。なぜ、パウロがこのことを書いたのでしょうか？実は、パウロのもとにコリント教会のリーダーたちから質問が届いたのです。「偶像にささげた肉に関して教えて欲しい」という質問だったのです。パウロはこれまで8章を通して、そして、この10章でそのことの教えをして来ました。そして、この31節でその結論を示すのです。ですから、「**こういうわけで、**」という接続詞がそのことを表わしています。パウロが言わんとした生き方、偶像にささげた肉に関してどうすればいいのか？あなたたちは神の栄光を現わすためにすべてのことをしなさいと、言い方を変えると、どんなときにもあなたがたは神がお喜びになることを選択すべきだと言うのです。食事に関しても飲み物に関しても、あなたが考えなければいけないのは、主の栄光を現わすことは何なのか、主が喜んでくださることはいったい何なのか、そのことを考えてそれを行なうことだと言うのです。

この教えは飲食だけに限定されるものではありません。私たちの生活すべてに及ぶことが記されています。「**何をするにも、**」とあります。飲食だけでなく、私たちが生活する上で最も必要な、そして、毎日行っている事柄、それ以外のすべてのことに及んで、パウロは「**すべてにおいて神がお喜びになることが何かを考えてそれを行ないなさい。**」というメッセージを与えるのです。

今日、私たちは「**主の栄光を現わす生き方**」について学びます。特に、パウロは二つのことを教えています。このような生き方によって主の栄光を現わすことができると教えています。その一つは、「**主のお喜びになることを行ないなさい**」、それによって主の栄光が現わされるのです。二つ目は「**主がお喜びにならないことを行なわない**」ということです。喜ばれることを行ない、喜ばれないことを行わない、非常にシンプルなメッセージですが、また、非常に大切なメッセージです。

ごいっしょに見ていきましょう。

☆主の栄光を現わす生き方とは？

A. 主がお喜びになることを行なう

主がお喜びになることをあなたは行ない続けていきなさい、そうすることによって、あなたは主の栄光を現わし続けることができますと言います。

1. 兄弟の信仰の成長を助ける 10：23－24

10：23－24「すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが徳を高めるとはかぎりません。：24 だれでも、自分の利益を求めないで、他人の利益を心がけなさい。すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。すべてのことはしてもよいのです。しかし、すべてのことが徳を高めるとはかぎりません。」

1) 私たちクリスチャンには「自由」が与えられた

23節に「すべてのことは、してもよいのです。」と二回繰り返しています。つまり、私たちには自由があるということです。私たちは食べ物に関して、主からある規制を頂いているではありません。このような物を食べてはならないという教えはありません。私たちはすべてのものを感謝して頂くことができます。特に、ユダヤ人たちが守っていた「特別な日」に関してはどうですか？この日を遵守しなければいけない、特別に祝わなくてはならないというきまりは、私たちには別にありません。そのような律法から私たちは自由にされたのです。私たちがこうして礼拝に集まって来るのも、しなければいけないからではなく、私たちは主を愛し兄弟姉妹を愛するゆえに、万難を排して礼拝に集まって来るのです。いっしょに主を崇めることができる、いっしょに主のみことばを聞いて、私たちは主のみことばを知ることができる。兄弟姉妹が集まってともに励まし合いながら、ときには、それぞれの罪を戒め合いながら協力し合って正しく歩んでいこうとします。そのためにも私たちはこの時間が私たちにとって大切な時間であることを知っています。ですから、私たちは万難を排してここに集まって来ようとしています。しなければいけないからではなく、私たちがしたいからです。主を愛するからです。兄弟姉妹を愛するからです。ですから、まず、パウロは私たちクリスチャンには自由が与えられていると言います。

2) 私たちクリスチャンには「責任」が与えられた

同時に、私たちクリスチャンには責任も与えられています。ですから、23節は「すべてのことは、してもよいのです。しかし、」と続きます。「しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。…しかし、すべてのことが徳を高めるとはかぎりません。」と、パウロが教えようとするのは、何をしてもかまわない、もちろん罪でなければですが、その自由があるけれども、同時に、そこには責任があつて、あなたはよく考えて正しい選択をすることが必要だと教えるのです。では、私たちはどのような選択をすべきか、パウロは二つのことを教えます。

◎二つの責任

(1) 人々にとって「有益なこと」を選択しなさい 使徒20：20、Ⅱテモテ3：16

人のためになること、役立つことです。私たちはクリスチャンの兄弟姉妹たちに対して、彼らの信仰が成長することを考えて、そのために正しい選択をし続けていくことが必要です。実は、有益でないこともあるのです。ですから、よく考えた上で、本当に彼らの信仰が主にあつて成長することを選択するようにと言います。使徒20：20「益になることは、少しもためらわず、あなたがたに知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、」、Ⅱテモテ3：16「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」

(2) 人々にとって「徳を高めること」を選択しなさい

「徳を高める」と訳されているギリシャ語は「建物を建てていく」という意味をもっています。ですから、このことばは新改訳聖書では「屋根」や「屋上」ということばに訳されています。このことばと「家」ということばが合成されているのが、ここにある「徳を高める」というギリシャ語です。建物を建て上げていくという意味でこのことばを使います。ですから、私たち信仰者は、周りの兄弟姉妹たちを見て、彼らの信仰が建て上げられていくように、そのために正しい選択をするようにと彼らを教えるのです。

結論：私たちは「伝道と教化」と言います。私たちはすばらしい救いのメッセージを語るだけでなく、その救いに与った者たちが信仰にあつて成長するように、つまり「教化」のために労していくようにということです。まさに、パウロがここで教えていることはそのことです。そのことを考えて、周りの兄弟姉妹の信仰が成長するためにあなたは労していきなさいとパウロは教えるのです。ローマ書15：2に「私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。」とある通り

です。しかも、特に「弱い人々」に対してそのように為すようにとパウロは繰り返し教えています。

◎特に、「弱い人々」が成長するようにと助ける

教会の中に、このコリントの教会もそうでしたが、信仰的に弱い人々と信仰的に強い人たちがいたのです。どの時代でもどの教会でも同じことが言えます。ですから、信仰的に強い人たちは、そのように弱い人々を助けて、彼らが主への信仰においても、主への知識においても、また、愛においても成長するようには助けてあげなさいと教えるのです。

a) 信仰的に弱い理由

信仰をもってまだ間がないから、救われてから余り時間が経っていないから、まだ聖書の真理がよく分かっていません。だから、信仰的に非常に若い人々、つまり、信仰において弱い人々です。でも、信仰生活が長くても弱い人々もいるのです。信仰歴が長くても、みことばの学びと実践に励んでいないと、信仰的に弱いです。みことばを聞いてもただ聞くだけでそれを実践しないなら、それは皆さんの力にはなりません。ですから、信仰的に弱い人々の問題は、ただみことばを聞いているだけかもしれないのです。みことばの実践が伴っていない可能性があります。もう一つ挙げるなら、正しい交わりがないことにも原因があります。「交わり」というと皆が寄って楽しい時間を持つ、美味しいものを食べてワイワイ騒いで終わるようなことを思いますが、残念ながら、これは聖書の教える交わりではありません。それはクリスチャンでない人もみなやっていることです。

クリスチャンに教えられている交わりとは何でしょう？もちろん、美味しいものを食べてはいけないということではありません。そういう自由はありますが、目的ははっきりしています。そのことによって互いの信仰が成長するためにです。だから、ともに集まる時に私たち励まし合います。また、ときに責めたり戒め合ったりします。それは愛するからです。「兄弟、この点があなたの弱いところだよ。兄弟、あなたはこの点を直さなければいけない。」と、そういうことを通して私たちは気付くのです。私たちが成長するために必要なことは、私たちの弱さが克服されていくことです。私たちの弱さが変えられていくことです。そのためには、そのようなすばらしい信仰の友が必要なのです。私たちに教えてくれる友です。「ここを変えないといけない」と教えてくれる友です。そのような人々と交わることによって私たちは変えられていきます。成長していくのです。

ですから、このコリントの教会の中にも、理由はよく分かりませんが、信仰的に非常に弱い人々がいたのです。

b) そこで成長を助ける

そして、パウロは、そのような人々の信仰が成長するようには助けてあげないといけないと言うのです。どのようにして私たちは彼らを助けることができるのか？いくつか見ましょう。

(1) 知恵を養う：私たちクリスチャンの望むことは、いかなる状況にあっても正しい聖書的な判断ができる人になることです。この状況でどのような選択をすることで神が喜ばれるのか？こういう酷いことを言う人に私はどのように応じたらいいのか？この状況でどのように振る舞うことが正しいのだろうか？と、神の前に喜ばれることを考え、それを選択することができる人、その人が知恵のある人です。その人が霊的な人です。ですから、私たちがともに集まる時には、弱い人がそのような選択ができるような、そのような判断ができる人へと成長するようには助けていってあげるのです。いろんな会話の中で出て来るでしょう。こんなことがあって、このようにしたということを知って「でも、それはどうでしょう？どのように対応すればいいのか聖書をいっしょに見てみましょう。」と言うかもしれません。そうして徐々に、正しい判断ができるようには成長することができるのです。知恵を養うことです。

(2) 信仰を高め合う：いろんなことが起こって私たちの信仰をぐらつかせることがあります。本当に主を信頼しているのだろうか？と。だから、私たちは兄弟姉妹が必要なのです。ときには、何も言わずに横に座ってくれてただ祈るだけという、そういう友が必要です。大変辛い中で、しっかり主を見上げて歩んでいるその生き様を見ることによって、人々は励まされます。そうして私たちは信仰的に弱い兄弟姉妹を励ましていくのです。「主に信頼していたらいい。主は常に最善を為される。この主は信頼に値する神なのだ。」と。

(3) 知識を深め合う：私たちはより深く主を知るためにともに集まって、その主のことを話し合うことも必要です。神がどんなにすばらしい方であり、どんなに偉大な方であるか、私たちは話し合うことによって、その知識を共有することによって、ともに成長することができます。

(4) 愛を育む：愛の実践に互いに励んでいくことです。愛を示すことは非常に難しいことと私たちはよく知っています。だから、互いに助け合って、励まし合って、その愛を実践するようには助けていくことができるのです。

少なくとも、このように見た時に、こういう形をもって、私たちは弱い人たちを助けていくことができます。もちろん、それを通して私たち自身も成長していくことができるのです。

パウロはこのように言っています。ローマ14：19「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」と。彼は二つのことを言いました。

(1) **平和に役立つこと**：パウロが教えることは、神に仕える者として愛をもって人に仕えて生きていこうということです。自分のことよりも人のことを優先する人として、自分を喜ばせることよりも人を喜ばせることをまず選択する人として、人の悪口や不満や批判などではなくて、主への感謝をささげ続けるように、そういう人になるように助け合っていきなさいと言います。「平和に役立つこと」、平和を作ることを目指しなさい、そういう人であるようにと言うのです。

(2) **霊的成長に役立つこと**：ことばの通りです。互いに信仰において成長していくようにと。

このようなことを追い求めていきなさいと言うのです。成長において「もうこれで十分だ」などと言えません。まだまだ、私たちは変えられなくてはいけないし、まだまだ、成長していかないといけない。ですから、私たちはそのように互いに励まし合いながら互いに成長していこうとするのです。

皆さん、私たちの信仰が成長することがなぜ大切なのでしょうか？あなたの信仰が成長し、あなたが益々キリストに似た者に変えられていくことがなぜ必要なのか？それはあなたがそのような人に変えられていくことによって、あなたを通して神の偉大さ、神の栄光が現わされるからです。主イエス・キリストはヨハネの福音書13章で「もしクリスチャンが互いに愛し合うなら」ということで、その結果について教えています。ヨハネ13：34, 35「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。：35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」。あなたが成長することによって、あなたがみことばを实践することによって、あなたを通して神が明らかにされていくということです。

皆さん、こんなに宗教の溢れている日本という国にあって、みな良いことを言うでしょう。問題はその言っていることを実践しているかどうかです。愛を説くなら、私たちは愛を实践する者になるはずで、赦しを説くなら、赦しを实践する者であるはずで、私たちが愛の、そして、赦しの聖い神を明らかにするのなら、私たち自身がその愛をもって人を愛し、その赦しをもって人を赦し、そして、その聖さに倣って聖く歩んでいくことです。私たちの周りが見ているのは、私たちの信仰が本物かどうかです。もっと言えば、私たちの信じている神が本物かどうかです。もし、あなたがそのように歩んでいくなれば、みことばの实践を為していくならば、主が言われたことは、人々はあなたのうちに働いておられる主を見るということです。だから、大切なのです。だから、どんなに知識を蓄えてもそれだけなら虚しいのです。そのように生きなければなりません。行ないが伴った伝道には力があります。

KEY：ですから、まずパウロは言うのです。神の栄光を現わすために、あなたは兄弟の成長のために生きていきなさいと。つまり、自分のために生きるのではなく人のために生きなさいということです。まさに、それがこの10：24のみことばが言うことです。「だれでも、自分の利益を求めないで、他人の利益を心がけなさい。」と。あなた自身のことよりも、あなたの周りの人たちの信仰の成長のために尽くしていきなさいと。

2. 主の模範に倣って歩む Iコリント11：1

二つ目に、主がお喜びになることは「主の模範に倣って生きていくこと」です。Iコリント11：1のみことばを見てください。「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。」とあります。パウロは主イエス・キリストを模範として彼に倣って生きていました。そして、彼が勧めることは「あなたも同じようにしなさい」です。では、主イエス・キリストはどのような歩みをしていたのでしょうか？主に対して忠実であり、主の教えに対して従順でした。

1) **忠実**：ヘブル3：2には「モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実なのです。」と記されています。

2) **従順**：ピリピ2：12「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。」

主イエス・キリストは父なる神に従順に従って行かれた。彼の歩みはまさに忠実そのものだったと言います。ですから、イエスを見た時に、父なる神に対して忠実であり、そのみこころに対していつも従順だった。だから、彼は父なる神の栄光を完璧に現わしたのです。私たちも主の栄光を現わしていくなら、同じように、主に対して忠実であり、主の教えに対して従順に従い続けていくことが必要です。

これが、まずパウロが私たちに教えてくれた「主がお喜びになることを行なっていきなさい」という

二つのことです。

B. 主がお喜びにならないことを避ける

どんなことを主はお喜びにならないのか、これも二つ挙げます。

1. 兄弟をつまずかせる 25-30節 (8:9-13)

信仰の弱い兄弟のつまずきにならないようにということです。

a) 偶像にささげた肉について

最初に話したことを思い出してください。コリント教会のリーダーからパウロのもとに質問が来ました。偶像にささげた肉に関してどうすればいいのかという問いでした。実は、この当時、たくさんの肉が偶像にささげられていました。その当時の背景を簡単に説明します。この当時、もし肉を買いたいとき、二つの方法がありました。一つは普通の市場に行ってそこで買うことができましたが、値段は少し高かったのです。もう一つは偶像の宮に行ってそこで肉を買うことでした。それは市場の肉よりもはるかに安かったのです。

なぜ、人々は偶像に肉をささげたのか？実は、人々は悪霊の存在を信じていたので、悪霊はその肉に取り付いているから、その肉を食べるなら悪霊がその肉を食べた人の内に宿ると思っていました。ですから、彼らは食べる前にその肉を祭壇に持って行って祭壇の上で焼いて肉を聖めるということをしたのです。全部の肉を焼いてささげたわけではありません。一部の肉を焼いたのです。そして、残った肉で、その聖められたと思った肉をもって宮の中で祝宴を開くのです。それでも食べ切れない肉があった場合、それを人々に売ったのです。このようなことがこのコリントの町で行なわれていたのです。その時代のことです。

信仰的に大人の人たちは偶像の宮で肉を買って食べることに何の問題も感じていませんでしたし、その肉に悪霊が宿るなんてだれも信じていません。肉は肉です。ですから、多くの人たちはそこに行って肉を買ったのです。しかし、教会の中にはそうではない人たちが集っていました。その人たちが救われて教会に集っていたのです。それが教会に存在した問題です。彼らの信仰はまだ浅いゆえに、その行為を見ると「その肉は偶像にささげた肉ですよ！」と言っていたのです。かつての習慣から救い出された人たちにとってはそれは彼ら自身を非常に混乱させる出来事でした。「それは食べてもいいのですか？」と、このようなことが教会の中に起こっていたので、信仰的に強い人たちはこの件に関してパウロの見解を聞こうとして手紙を送ったのです。その答えがここに出て来ているのです。

パウロの答えは「どんな肉を食べても構わない」です。10:25をご覧ください。「市場に売っている肉は、良心の問題として調べ上げることはしないで、どれでも食べなさい。」「これは偶像にささげられたのですか？そうでないのですか？と調べる必要はない。食べたなら良い。」と言うのです。26節「地とそれに満ちているものは、主のものだからです。」と続きます。感謝して頂ければいいとパウロは言うのです。もし、あなたがたが信仰のない人、クリスチャンでない人たちに招待されてそこに行きたいと思うのなら、良心の問題として調べ上げることはしないで、自分の前に置かれているものはどれでも食べなさい。出された食事は感謝して頂ければいいということです。

b) 教会が抱えていた問題について

28-30節に「しかし、もしだれかが、「これは偶像にささげた肉です」とあなたがたに言うなら、そう知らせた人のために、また良心のために、食べてはいけません。:29 私が良心と言うのは、あなたの良心ではなく、ほかの人の良心です。私の自由が、他の人の良心によってさばかれるわけがあるでしょうか。:30 もし、私が神に感謝をささげて食べるなら、私が感謝する物のために、そしられるわけがあるでしょうか。」と書かれています。つまり、パウロは、私たちには食べる自由がある、その権利があるけれど、私たちはそれを賢く用いなければいけないと言うのです。「私は何を食べても自由だから好きなものを食べます」と言って、そのことに躊躇していたり、また、それを疑問視している人たちの前で食べるなら、彼らのつまずきにならないか？と言っているのです。パウロは「それなら止めなさい」と言います。食べることはできるとし、食べても問題ないけれど、それが信仰的に弱い人たちのつまずきになるのなら、あなたは信仰の先輩としてそれを食べないでいなさいと言うのです。

昔、アメリカであるクリスチャンの家庭に行った時に、「うちの家はトランプをしない」と言ったのです。私はなぜ？と思ってその理由を聞いてみると、「トランプを用いてギャンブルをしている人たちがいるから」ということでした。例えば、そのような人たちがクリスチャンの家にやって来てトランプをする時にそれがその家の人たちのつまずきになるかもしれない、その人たちのかつての生活を思い起こさせて、彼らがかつての生き方に戻ってしまうきっかけを作ってしまうかもしれないと思うのです。しかし、家族でババ抜きをしていて、そこに来るお客さんがカードでギャンブルをしていたなどは考

えにくいし、そのような人たちが周りにはいないと思うのです。でも、ここで言わんとしていることはそういうことです。私たちは何をしても構わない、もちろん、罪以外のことですが、でも、考えなければいけないのは、私は良いと思っていることでも、それが信仰の弱い人たちのつまずきになるのなら、それは止めなければいけないということです。

パウロの結論

パウロは食べるかどうかは「神の栄光が現われるかどうか」、すなわち、「神がお喜びになるかどうか」で判断するようにと教えました。

マタイ 18 : 6, 7 「:6 しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。:7 つまずきを与えるこの世はわざわいだ。つまずきが起こるのは避けられないが、つまずきをもたらす者はわざわいだ。」

マルコ 9 : 42-47 「:42 また、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。:43 もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片手でいのちに入るほうが、両手そろっていてゲヘナの消えぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。:45 もし、あなたの足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいのちに入るほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。:47 もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすのなら、それをえぐり出さなさい。片目で神の国に入るほうが、両目そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。」

ローマ 14 : 13 「ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを置かないように決心しなさい。」

ローマ 14 : 19 「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」

ローマ 14 : 21 「肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。」

ローマ 15 : 2 「私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。

Ⅰコリント 8 : 13 「ですから、もし食物が私の兄弟をつまづかせるなら、私は今後いっさい肉を食べません。それは、私の兄弟につまずきを与えないためです。」

これらの箇所を見ても、ここで繰り返し教えられていることは、弱い兄弟をつまづかせることの罪、その問題の重大さです。兄弟につまずきを与えることに対して、みことばは厳しく戒めています。

だから、私たちはよく考えなければいけません。自由が与えられているけれども「責任がない」と聖書は言っていません。それぞれの自由を賢く用いなさいと教えています。人々のつまずきになるようなことはしてはならないということを最初にパウロは教えるのです。

2. 不忠実、不従順の罪

先程、「忠実で従順な行ないが神の栄光を現わす」と言いました。それと真逆な「不忠実や不従順の罪」は、悲しいことに、神の栄光を現わすものではないのです。ここで皆さんに、ある一人の人物のことを話したいと思います。それはダビデ王です。Ⅱサムエル記 12 章を見ると、ナタンという一人の預言者がダビデ王のところにやって来て、彼の罪を明らかにして、彼を責める様子が記されています。どのようなことが起こったのか？思い出してください。ダビデはウリヤの妻であったバテ・シェバとの間に姦淫の罪を犯しました。そして、それだけでなく、その夫ウリヤを殺すために彼はウリヤを戦場で戦いの最前線に送るようにし、彼が確実に死ぬようにと仕向けました。すべては自分の思い通りに進みました。しかし、神はそのすべてをご存じでした。そこで預言者ナタンを遣わして、ダビデの罪を明らかにするのです。それがこのサムエル記第二 12 章に出て来ます。ナタンがダビデにその罪を明らかにしたときに、ダビデは「私は【主】に対して罪を犯した。」(12 : 13) と言って、主の前に罪の告白をしています。ここではこれだけの記事ですが、詩篇 51 篇に長い告白が記されています。ダビデは本当に自分の罪を主の前に悔い改めました。そこで、ナタンはダビデにこのように言っています。13b-14 節「【主】もまた、あなたの罪を見過ごして下さった。あなたは死なない。:14 しかし、あなたはこのことによって、【主】の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる子は必ず死ぬ。」と。

「あなたはこのことによって、【主】の敵に大いに侮りの心を起こさせた」と書かれています。実は、この箇所を私たちが信頼する英語の聖書で見ると、次のように二つの訳が出て来ています。それを訳すと、一つ目は「この行為によってあなたは完全に主を蔑んだ」です。もう一つは「この行為によってあなたは主の敵に冒瀆するための機会を与えた」です。なぜ、このように訳に違いが出て来るかというと、ヘブライ語の聖書に「【主】の敵に」ということばが含まれているものと含まれていないものがあるからで

す。ですから、上記のような訳があるのです。しかし、この箇所が教えているメッセージは明らかです。

◎この箇所が教える問題は？

1) ダビデの選択は、神に対する大きな罪であった

ですから、ナタンがそのことを責めています。

2) ダビデの選択は、神の敵に罪を犯させる機会を与えた

ダビデの行為は、神を蔑んだ行為でした。また、この行為によって、神の敵が神を冒瀆する機会をダビデは与えたのです。つまり、この罪によって、人々はダビデの神を責めるのです。「ダビデの神とはこんな神なのか！」「ダビデの神とは、このような罪を赦されるのか？」「ダビデの神はこのような殺人や姦淫を良しとされるのか？」と。つまり、ダビデのその罪によって、ダビデ自身が責められることは当然です。悲しい現実は、そのことによってダビデの神が責められたのです。そのことをこの14節のみことばが言っているのです。「【主】の敵に大いに悔りの心を起こさせた」と言います。彼らはダビデだけでなく、ダビデが愛して仕えた神をも侮ると言うのです。

私たちもそうです、皆さん。皆さんが愛のない行為をするなら、その行為を見ている人たちは「何だ、あの人が信じている神はそんな神なのか、愛のない神だ！」と、皆さんが赦しを実践しないなら、周りの人たちは言います。「何だ、あの人が愛している神はこんなにも了見の狭い神なのか！人を赦すこともできないなんて…。」と。罪というのは、それによってあなたが責められるだけでなく、あなたの神が責められるのです。そのことを私たちは覚えていかないといけないのです。なぜ、私たちが罪を憎むのか？「罪は間違っているから！」、確かにそうです。でも、それ以上に、私たちの愛する神が汚されてしまうからです。私たちの愛する神が人々によってバカにされるからです。だから、人々は罪を憎んだのです。神を愛するゆえにです。

どうでしょう、皆さん？ 私たちはそんな思いをもって罪を憎んでいるのでしょうか？ひょっとしたら私たちは「神さまはどんな罪でも赦してくださるから大丈夫だ！」などと思っていないですか！？この中に神が悲しんでおられる罪を大事に握り締めている方がいませんか？その結果、ご自分の中に喜びがないだけでなく、もっと悲しいことは、あなたの神の栄光が汚されるのです。間違った選択によって自分が喜びを失ってもそれは自分自身の蒔いた種です。しかし、あなたの罪によって、あなたの愛する神が、私たちの愛する神が汚されてしまう、人々から侮られてしまう、そんなことを赦してはいけません。だから、罪から離れなさいと言うのです。主を悲しませる罪から離れなさいと。主に対して不忠実であってはならない、主の教えに対して不従順であってはならない、なぜなら、そのときに主の御名が汚されるからです。

非常に重たいですね！でも、感謝なことは神は私たちの罪を赦してくださるのです。だから、私たちは罪を犯さないでいたいと思いつつも罪を犯してしまう弱く愚かで罪深いものですが、すぐに神の前に立ち返るのです。いつも神の前に罪を悔い改めて、そして、主によって聖められて正しく歩み続けることです。それは早くしなければ、このような大変な結果を私たちは自分の身にだけでなく、神に対してももたらしてしまうことになります。

今日、私たちが見て来たのは、主の栄光を現わすということでした。神のすばらしさを人々の前で明らかにしていこうとするなら、私たちひとり一人がその歩みをしっかりと吟味して、そして、主がお喜びになることを選択していくことが必要です。また同時に、主がお喜びにならないことを私たちは捨てるべきです。そこから離れることです。そのときに主の栄光が現わされていくからです。

どうぞ信仰者の皆さん、あなたの神の栄光のために、みことばが教えていることをしっかりと守り、そのことを実践してください。神はそのために必要な助けを与え続けてくださいます。私たちに必要なことは、そのように歩んでいきたいというその決心であり、それを可能にしてくださる神に助けを求め続けることです。その歩みをもって、この新しい一週間、私たちの偉大なる神の栄光を現わし続けていきましょう。そのために私たちは救われ、そのために生かされています。

《考えましょう》

1. 聖書の教えに「忠実に」、また「従順」に生きることが主の栄光を現わすのはどうしてでしょう？
2. 「徳を高める」とはどういう意味かを説明してください。
3. 「兄弟の徳を高める」ために、あなたはどうすれば良いのかを記してください。
4. 「兄弟をつまずかせない」とは、どういうことを説明してください。また、「兄弟をつまずかせない」ために、あなたが気をつけなければならないことを記してください。もし、「兄弟をつまずかせってしまった場合」は、何をすることが主の前に正しいのかをお書きください。